【議事録】令和４年度第１回問題協議会

令和４年８月８日（月）
県庁防災新館 409 会議室

（１）「やまなし子供・若者育成指針」について

（議長）

議事の（１）「やまなし子供・若者育成指針」について、事務局から説明をお願いする。

（事務局）

―資料１・資料２・資料３により説明―

本指針は、令和２年３月２７日の庁議において策定された。策定に際しては、当協議会において、子供・若者を取り巻く現状と課題について御意見をいただくとともに、誕生から社会的に自立するまでの支援施策について、幅広い立場から御提言いただき、知事への答申としてとりまとめたものを提出いただいた。資料２はその概要版となっている。多岐にわたる内容となっているので、新たな育成指針の要点について、【資料３】のパワーポイントにて、説明させていただく。

「やまなし子供・若者育成指針」とは、子供・若者をめぐる今日的課題に対応し誕生から社会的自立に至るまでの支援施策を総合的かつ体系的に構築し、効果的に推進するために策定をしている。指針の位置付けは、本県における子供・若者育成施策を総合的かつ効果的に推進するための基本方針となっており、国の子ども・若者育成支援推進法に基づいた各県の計画という位置付けである。指針の対象については、0 歳から概ね 30 歳未満までの子供・若者となっており、雇用など一部については 40 歳までを対象とする。推進期間は、令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 年間となっている。

次に、改定にあたっての現状と課題。一つ目が、障害のある子供・若者の増加。このグラフのとおり、通級による指導利用者数、特別支援学級の在籍者数は年々、増加している。県民への理解を深め、障害を抱える子供も自分の力を十分に発揮できるような環境、教育が必要であるということが課題となっている。二つ目が、在留外国人の増加。本県においても平成 28 年から在留外国人の数は増加傾向にある。在留外国人の日本語学習支援の充実や多文化共生や異文化理解を深めていく取組が必要になる。三つ目が、インターネット利用時間の増加。平成 30 年度の調査において、インターネット利用時間が大きく増加している。平日 1 日にインターネットを利用する時間は 2 時間から 3 時間未満が最も多く、インターネットの利用時間が増加している。インターネットを適正に利活用する能力を育てていくことが大きな課題となっている。四つ目は、本県の調査において、子供・若者の県内・県外意向を見ると、県内意向が少しずつ低下しているといえる。このことからも、ふるさと山梨に愛着と誇りを感じ、地域の中で、未来を切り拓いていく子供・若者を育てていくことも大きな課題であると考えている。

このような課題を受け、新たな子供・若者育成指針を策定した。指針策定のポイントは、

そこに挙げた４つ。一つ目は、子供・若者に関する調査を反映させ、調査結果から出てきた課題に対応する施策をできる限りとり入れていくこと。二つ目が、県の総合計画、教育大綱を勘案しながら、同じ方向性で、指針方を進めていくこと。三つ目は、指針の効果を高めるために、子供・若者に対する事業を充実させていくことも進めた。四つ目が、行政だけでなく、県民全体が参加して、子供・若者の支援をしていく指針を目指し改定を行った。基本理念は、「夢と志を持ち、健やかに成長し他者と共同しながら、やまなしの未来を切り拓く子供・若者を育むために」とし、指針のイメージは、県民総参加で子供・若者を応援する体制をつくっていくこと。

指針には、５つの基本目標がある。一つ目が、全ての子供・若者の健やかな成長。「知・徳・体」の育成、社会的職業的自立等の内容が入っている。二つ目は、困難を有する子供・若者やその家族への支援。いじめ、不登校、引きこもり、非行・被害防止、外国人、貧困等、困難を有する子供・若者への支援。三つ目は、社会全体で支える環境作り。社会環境の健全化、インターネットの適切利用等が含まれている。四つ目は、担い手の養成。地域人材や専門性の高い人材を育て、子供・若者の育成に反映していく。そして、五つ目は、やまなしの未来を切り拓く子供・若者の育成で、グローバル人材の育成、山梨のよさを伝える取組、地域で活躍する若者を育てていくという内容が盛り込まれている。以上、指針について説明させていただいた。

（議長）

何か質問・意見はあるか。

（委員）

特になし。

議事（２）「やまなし子供・若者育成指針」の進行管理について

（議長）

議事（２）「やまなし子供・若者育成指針」の進行管理について、事務局からの説明をお願いする。

（事務局）

資料４の進行管理表は、「やまなし子供・若者育成指針」において位置づけた１２の重点目標に合わせ、県における実施事業を体系的に整理したものになる。これらの事業の実績について、関係各課や連携機関へ照会させていただいたものを取りまとめたもの。時間の都合上、令和３年度の本課に関わる３つの事業の実施状況の報告、そして、指標一覧の説明のあと、令和４年度の新規事業について、担当課に説明をしていただく。

進行管理表のＰ１７【事業 104】山梨県少年サポートネット推進事業。
本事業は非行等の問題を抱える少年の立ち直りを支援するため、教育委員会と警察本部が主体となり、伴走型による支援プログラムの実施、また、関係機関からの支援情報等のフィードバック等により、少年非行の減少、非行の連鎖の防止等を図る事業となっている。令和3 年度の実績として、 ６月８日にサポートネット推進協議会を開催し、２３の関係機関と連携体制を構築した。具体的な支援状況ですが、令和３年度中の支援対象少年は１８名プログラム実施回数　計７０６回（内訳とすると家庭支援５８５回、体験活動支援４８回、学習支援５５回、就労支援１８回行った）令和４年度の事業の方向性とすると、学校現場等に当事業の周知を行い、各機関との連携をさらに綿密にして支援内容の充実を図り、非行の減少、非行の連鎖の防止等をめざしてく。

次に、進行管理表Ｐ２８【事業 164】ほっと！ネットセミナー
この事業は２～12 歳の子供をもつ保護者及び小学校高学年の児童に対し、ネットトラブル、フィルタリングの利用、家庭でのルールづくり等の内容で出前講座を実施するもの。新規事業として昨年度から立ち上がった事業になるが、コロナ禍による外出自粛生活の影響やGIGA スクール構想のため、子どもたちのインターネット利用時間が増えている状況もあり、学校現場からのニーズが高まっている。昨年度は小学校で 40 件、保育園で 2 件、県政出張講座等で 5 件の要請があった。令和４年度も引き続き出前講座を実施し、インターネットの適正利用と情報モラル教育の推進に向けて啓発を行っていく。

Ｐ３２【事業 45】やまなし若者まちづくりチャレンジ協働事業
本事業は若者が豊かな発想や行動力、ネットワークを利用して、主体的にまちづくりに参画することで、将来の地域リーダーとしての資質向上を図ることを狙った事業となっている。令和 3 年度は県内の大学生、高校生、専門学校生 38 名による実行委員会を組織して、「やまなしフォトンプラリー」「ワクワク！やまなし収穫祭!!」など、山梨の魅力を多くの人に知ってもらうために、また、地域を活性化させるために自分たちにできること、コロナ禍でもできることを考えて取り組んだ。令和 4 年度は、更に多くの若者が実行委員会に参加できるようにするため、常時活動する実行委員とオンライン上でのみ参加するオンライン会員を募集する等、個に応じた参加形態を選択できるよう工夫していく。

次に、進行管理表の最後のページ３５、３６ページに「やまなし子供・若者育成指針」目標となる指標一覧があるが、これは、【資料 1】子若指針の最後のページに掲載されているものであり、毎年度、５つの基本目標の達成状況を本指標に基づいて、点検・評価を行うこととなっている。
基本目標１「全ての子供・若者の健やかな成長に向けた支援」の状況だが、「確かな学力の向上」に関しては、１番の全国学力･学習状況調査の全国平均正答数との比較割合、「健や

かな体の育成」については、2番の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における全国との比較割合が指標項目となっている。令和3年度は目標値に達していない状況である。次に、3番は児童生徒がキャリア形成を見通したり、振り返ったりするために作成されたキャリアパスポートの活用が、令和2年度から小中高校で使用が始まった。これについては、すべの校種で活用されており、目標値に達している状況である。

基本目標2「困難を有する子供・若者やその家族へのきめ細かな支援」については、4番の「学校内外の機関で相談・支援を受けている不登校児童生徒の割合」だが、令和3年度の数値については、まだ、指標の元となっている教育振興基本計画でも公表されていないため掲載できない。令和2年度の現況値を見ると、小中学校では目標値を超えたが、高校においては令和元年度よりは相談支援を受けた割合が増えたものの、目標値には達していない状況である。5番のひきこもりサポーター養成研修を実施している市町村の数は、令和2年度から少しずつ増え、令和3年度においては5市町というと言う状況である。6番小・中・高等学校の職員が、特別支援教育に関わる理解を深めることを目的とした研修会を受講した割合は、令和3年度には中学校、高校で目標値を超えた。小学校においてもほぼ100%となっている。7番子供の貧困対策に関する地域ネットワークを構築している市町村の数は、20市町村。目標値まであと7市町村となっている。

基本目標3「子供・若者の成長を社会全体で支える環境づくり」においては、8番は小学校における「放課後子ども教室」の設置割合が指標となっており、令和3年度は79%となり、ほぼ目標値に達してきている。9番のインターネットの適正利用に関する出前講座は、平成30年度時は少年女性安全対策課と県民生活センターで出前講座を行っていたが、昨今、子供若者のインターネットを巡るトラブルや使用時間の長時間化、低年齢化してきている状況を受け、令和2年度から本課でも、セミナーを行うようになったため件数に入れている。コロナの感染状況のため中止になってしまうセミナーもあったが、着実に増えている状況である。

基本目標4「子供・若者の成長を支える担い手の養成」においては、10番の学生などに保育士の魅力を紹介する「保育フェア等」の参加者数については、昨年度は607人となり目標値を超えた。11番の社会教育指導者養成研修については、コロナ禍のため規模を縮小したり、回数を減らしたりしての実施となっており現況値は厳しい状況である。

基本目標5「やまなしの未来を切り拓く子供・若者への応援」では12番「ふるさと山梨」を活用した郷土学習コンクールの参加校割合について挙げられている。一昨年度は夏休み短縮の影響からか37%と下がってしまったが、令和3年度は50%まで戻ってきている。13番については高校生・大学生の海外留学への支援及び若手研究者への研究支援の人数をあげているが、海外留学についてはコロナ禍において厳しい状況であることが分かる。14番県出身学生のUターン就職率については、令和元年度に一度若干さがった。しかし、昨年度コロナ禍ではあったが、数値が目標値に近づいてきている。以上、令和3年度事業の実績報告と指標一覧について説明させていただいた。

続いて、令和４年度の新規事業について、担当課に来ていただいているので、説明をしていただく。

基本目標Ⅰ　全ての子供・若者の健やかな成長に向けた支援
❶Ｐ６【事業 36】高校教育課による「山梨県高校生国際交流推進事業」

基本目標Ⅱ　困難を有する子供・若者やその家族へのきめ細かな支援
❷Ｐ１４【事業 91】障害福祉課による「障害者就労支援施設工賃向上推進事業」

❸Ｐ２１【事業 126】子ども福祉課による「ヤングケアラーの支援強化事業」

基本目標Ⅲ　子供・若者の成長を社会全体で支える環境づくり
❹Ｐ２８【事業 163】健康増進課による「ゲーム・ネット依存対策の推進」

以上、「やまなし子供・若者育成指針」の進行管理について説明させていただいた。

（議長）
何か質問・意見はあるか。

（委員）
特になし。

議事（３）コロナ禍における子供・若者支援について

（議長）
議事（３）「コロナ禍における子供･若者支援について」､事務局からの説明をお願いする。

（事務局）
県では、これまで述べてきたように、令和２年３月に「やまなし子供・若者育成指針」を策定し、基本理念である「夢と志を持ち、健やかに成長し、他者と協働しながら、やまなしの未来を切り拓く『子供・若者』を育むために」をめざし、５つの基本目標を掲げ施策を推進してきた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大、オンライン授業などデジタル化が急速に進展したことにより、指針を策定した時期と現在とでは、社会スタイルや子供・若者を取り巻く状況、個人の価値観などが大きく変わってきている。この変化に対応した実効的な子供･若者支援を行うために、議事３では委員の皆様それぞれのお立場から子供・若者の状況や課題となっていることなどについて御意見をいただきたい。

（議長）
何か質問・意見はあるか。

（委員）
高校の実態等を中心にしながら現在の子供達の状況について話をさせていただきたいと思う。まず子供達の状況だが、中学校の先生方とも話をさせていただく中で、やはりコロナ

禍で本来体験すべき様々な活動がなくなってしまったことで、その時その時の発達段階で必要な人間関係とか葛藤みたいなものを乗り越えるということを経験しないまま進級していくということが続いており、全体的に子供達をお預かりする中でちょっと幼稚化していると感じる。例えば、ちょっとした人間関係のトラブルも今までの高校生であれば乗り越えられそうなもの、また、本来、高校生じゃなくて中学校とか小学校の高学年で乗り越えなければいけないようなものを、高校になってきてトラブルを経験し、それが乗り越えられないというようなお子さんが増えているかなと思う。具体的に言うと、例えば、人間関係を作るのに恐る恐るというようなところがあって、最初に席を決めた出席番号でつくった班の人間関係からなかなか外に広まっていくことができなくて、いつまでも小さなコミュニティの中での人間関係に収っているというようなことが目につくと感じている。コロナの中で、家庭で過ごす時間、ご家族と一緒に過ごす時間が多い中で、お家でもいい子でいなければいけない、なかなか本音が話せない、その中で特に様々な背景を持つご家庭がたくさん増えているので、家でも本音が言えない、学校でも何となく友達との人間関係を上手く作っていくことができない子がいる。また、担任の先生達にも気を遣って、いい子でいなければいけないというようなところで、なかなか本音を話す場面がない生徒が非常に多い。

結局、その本音をどこで話しているかというと、やっぱり自分と直接利害関係がないような人間関係の方と本音をポロッっと話してしまうとか、そこで自分の気持ちを安心させるというようなことも目につく。例えば、ＳＮＳとかインスタとかＬＩＮＥとかで友達との交流もしているが、本校の生活実態調査の中では、そのインスタ自身もものすごく緊張感が漂っている、例えばどんな言葉を使ったら認められるか、嫌われないか、省かれないかっていうような、生活実態調査の中でも一番の悩みは、そのＳＮＳ上の言葉の使い方っていうのが大きく出てきており、私達としても、子供達のソーシャルスキルトレーニングとかアサーティブなコミュニケーションの取り方とか、そういうふうなことを学校全体で取り組んでいく必要があるのかなと感じている。

ＬＩＮＥなんかは、特に限られた友達との中で安心して放課後、話せるのだが、逆にそこに大人の目が行き届かなくなることの中で、ちょっとそのリテラシーの部分では心配になることもあるのかなっていうようなことは感じているところである。

一方、保護者の方については、やはりコロナ禍で苦しいご家庭が増えており、様々なお金が納入されなかったりとか、子供たちの学業に対しても影響が出てきたりしているように見受けられる。おそらく支援が必要なご家庭ほど、制度はあってもそこにつながっていくことが出来ない。制度があってそのことを説明しても、困難もあって支援が必要なご家庭ほど、そこにつながるまでに非常にハードルがあるように感じている。もちろん生徒も保護者も支援を受けるということに対して、やはり心理的なハードルが高いなっていうことは感じており、その辺も難しいところである。特に、ＰＴＡ活動等はコロナで中断している状況もあり、親御さんなんかも孤立しているケースが目立つかなぁっていうふうなことは感じている。地域の取り組み等も含め、最終的には１対１の人間関係の中にいかに落とし込んでい

くのか。そこで信頼できる大人との人間関係、子供でも保護者でもそうだが、その人達の信頼できる人間関係をいかに複数用意していくか、そういうことが恐らくここを乗り越えていく時の大事なポイントではないのかなっていうふうなことを、今学校の方では感じている。

（議長）

中高生の側面から今あらゆる方面からのご意見を伺った。関連してあるか。

（委員）

今回発表できるということで、小学校のＰＴＡ協議会の方で色んな方の意見を聞いてきたので一部紹介させていただく。今、子供達は大人以上にコロナの感染症対策には取り組んでいる。私も日々生活をしている中で、子供の方が学校でコロナ対策をしているところもあるので、私の方が教わる部分はたくさんある。

学校現場としては、コロナのため学校行事などを極力行わないようになっているところが多いと伺っている。コロナだからできないというように、ちょっと守りに入ってしまっているのではないかという風潮が生まれてしまっていることが 1 点。あとはそのようなことで地域との交流もちょっと希薄になっている。私もそうだが、何かをやりたいって子供が言っても、「コロナだからちょっと待って」と言って一歩おいてしまうことがあったり、「すぐにはちょっと出来ないかなぁ」とか「やらない方がいいかなぁ」っていう結果を言ってしまう保護者の方もいたりして、子供達の声を上手く聞き取ってあげられない部分がある。だから学校の方でも子供達の声を聞きつつ、子供達がやりたいとか取り組みたいと言ったことに関しては、子供達の声を上手く学校運営に生かしていっていただきたい。

先程、話があったが、小学生から中学生になる子達は、今一番吸収する時期でもあるので、コロナだからできないっていうことにならないように、やはり挑戦させてあげることが大切だと思う。あと with コロナということで、コロナがすぐにはなくなるものではないので、それなりにその流れに乗って、子供の成長段階で必要なことはできるだけやってあげたいというのが、コロナ禍 3 年目になって親として感じている。そういうことも学校も保護者と一緒に話し合って活動してほしい。今までみたいにはできないかもしれないが、そういう活動ができればいいかなぁと思う。

あと個人的な話だが、今まで子供と一緒に出かけることはあったが、最近、子供は出かけたくないというようになった。私はちょっとまずいかなと思っていて、できるだけ人がいないところを選んで、外に連れ出すようにはしている。このようなことが引きこもりとまではいかないが、そういう方向につながらないようにしたいと思い、なるべく外に連れ出すようには心がけている。

あと、学校現場で先生方も一生懸命やって下さるのだが、子供がやりたいと言ったことを理由もなく「それはできないよ」と言われたことがあったようだが、どうしてできないかという理由を上手く説明していただきたい。高学年になれば子供たちも分かるので、上手くそういうふうに運営していただけるとありがたい。

（議長）
小中高の子供達のそれぞれの発達段階において、コロナも色々な影響が出てくるかなということを考えさせる持論をあげていただいた。さらに関連して何かあるか。
（委員）
今までの発達段階における人とのつながり方、社会性を育むというところに関連して、聞きながら思いだしていたのが、発達障害の方々の社会性というかコミュニケーション能力を向上させるのを支援する方法で、最近、授業で教えていただいたのが、好きなもの同士のコミュニティを作って、その中の交流を通して人との話し方を学んでいくという話を聞いた。実際に鉄道ファンの発達障害の方々が集まって、プレゼンとかをしながら交流している場面を見て、学校や社会で何らかの摩擦を感じながら生きてきただろうと思えるようなビデオだった。それを見て、好きなことについて話している時って本当に目が輝いて楽しそうに話をしていて、そういう中だと発達障害の一人の人にちょっと密着したみたいなビデオ教材だったのだが、会社の方では頑張って人と交流している感があったところが、そのコミュニティの中では素の自分で本当に言いたいことを言えている。さきほど、「良い子でいなきゃ」っていう遠慮があるという話があったと思うが、やはり、そこを好きなものっていうことで、ハードルを下げてあげるのも一つの方法なんじゃないかなと思った。
それと、少し別の話になってしまうが、基本目標５の山梨の未来を切り拓く子供・若者への応援、山梨の良さを実感する教育の推進というところに関連して、山梨の良さを実感するための教育はもちろん重要だと思っている。その上で、山梨はもっとここが伸びるんじゃないかっていう、成長の余地がある部分も伝えることで、自分たちがやらなきゃ、私が山梨を良くするっていう使命感を喚起できるようなこともあると思うので、その未発展の部分を伝えるのもいいのかなと思った。
（議長）
大きく分けて 2 点お話しをいただいたが、発達障害に拘わらず子供達も素になる場面をできるだけ用意してあげるということがやっぱり大人として大事だと思う。あと山梨の良さを実感する教育をさらに伝えていくと。そのために、やはり今の若者の世代にそういう良さをやっぱりぶつけ出す何かをしてかなきゃいけないかなぁなんてことも思うが、関連して何か意見があるか。
（委員）
私がやっている山梨県連合婦人会だが、昨年まではコロナ禍で非常に厳しい状況が続いたが、全部の事業を縮小しながらさせていただいた。止まってしまうと、もうその先に進んでいけないのでそういう方向で行ってきた。
実は先日、県立青少年育成山梨県民会議があり、その中で色々な事業をやっているが、その中で、あまり必要ないものはやらなくていいのではないかというご意見が出た。しかし、やっぱり今まで一生懸命取り組んできたことは大事にしていただき、県民会議の事業、挨拶、声かけ運動、あと中高生のネットワークショップ、インターネットの利用の問題等をワーク

ショップのテーマと捉えて自由な発想として考える機会とする事業をやっている。また、家庭の日の啓発ポスターの募集事業も行っている。主催事業である白ポスト事業というのもあるが、かなりの利用状況があり、今、17 市町村、投稿数で 1876、うち有害数が 1339 という数になっている。これもあんまり利用がなければという話だが、やはりこれだけ有害数があるということは、必要とされてると思うので、これは是非このまま続けて、私のところの村の村長さんのところにも行ってお願いをしてきた

あと、少年の主張山梨県大会というのが今年 8 月 20 日に開催されるが、昨年は 598 件で今年度は 431 件応募があった。全国では 3741 校の中学から約 40 万人の中学生が応募して下さっている。昨年、その中で山梨県代表の方が文部科学大臣賞を受賞している。やはりこれだけの方達が応募してくれているということは、各学校の先生達の努力もあると思うが、やはり子供達が一生懸命取り組んでいるということを皆さんに分かっていただきたい。是非これは今後も続けていただき、子供達の訴えたいこととかを皆さんにお知らせできたらと思っているので、ぜひ興味を持って頂きたいと思う。私は、大人が諦めたら子供達も止まってしまうと考える。大人が諦めずに前に向かっていくことが大事だと思うので皆様にもお願いしたい。

（委員）

今、お話しが出た「少年の主張」だが、この審査にも私も関わらせていただいており、こちらの方にいらっしゃる県の生涯学習課の課長さんも審査員、それからテレビ山梨の局長さんもやっていただいて、中学校の校長会からも審査員になっていただいている。その中でも去年、今年とコロナ禍のことを発表する子が多く、先程出てきたコミュニケーション、それに関して危機感を自分も持っている。昨年、文部科学大臣賞を取られた方は心のマスクを外して、というような形で発表しており、コミュニケーションはマスクをすることによって取りにくくなっているので、生徒会の取組の中でプロフィールを相互に交換して、深く知るようにしようというようなことをやっていった。

それから、先程、地域の話も出たが、こういった山梨でいいのかとか、自分たちの地域を何とかしていきたい、そういった意味でボランティアに関わる、やっぱりコロナとボランティアっていうのが結構今の話題として多い。先程の簡単なパワーポイントだと就職に関する県内志向の低下っていうのがあって、なかなか地域に定着してくれないということで、子供達が地域のことをどう考えているのかなって言ったときに、ここの 15 ページに地域をより良くするための活動に参加するかというという設問に、積極的に参加する、内容によっては参加する、誘われれば参加するという回答が、年を追うごとに増えている。だから誘われれば参加するっていう人が 87.7%。だからボランティアというか、地域に対しての関心が、今の子供達も高いのかなということですごく嬉しい感じを持ったのだが、昨今出ている傾向っていうのはこういった調査にも出てきているのかな、と感じた。それに関する施策っていうのがどこに出てくるのかな、と見たところ、多分、7 ページの社会参加の推進というところ、山梨若者まちづくりチャレンジ協働事業、高校生議会とか、この間、高校生議会があ

ったようだが、これがボランティアも含めて若者の社会参加っていうことで、意外とそのボランティアっていうストレートな、若者のボランティアを推進しようみたいな、そういった施策もちょっとないのかなってことで、今回は推進でしょうけども、今の進捗状況の話というのは分かるのだが、今後のそういった若者達を、誘われればやるとか機会があればやるっていう調査結果が出ている以上は、そういう気持ちを実際に生かす様な事業を考えて頂きたい。でも、実は先程説明があった山梨若者まちづくりチャレンジ事業って、R4 終了予定ってある。いい事業なのに何故終わるのかが私も疑問で一つそこだけはお訊きしたいなと思っている。子供達のそういった意識もあって、ボランティアやそういったこともいい話だとは思うが、新たな事業の中で逆に終了が出てしまっていることがどうかなという感じを持っているのだが、どうか。

（事務局）

私もこの事業はＲ４年度で終了予定というのを担当からもらった時に驚いた。この事業は、子供達が地域活性化のために自分たちのアイディアを生かして、創造的に取り組みを進められる、すごくいい企画だな、いい事業だなということを思っていたが、確認したところ、この事業をつくったときに計画期間の設定する必要があり、それが今回の令和 4 年度の終了予定ということになっているということで、この事業をもう一度見直して検証する中で、新たに名前が変わってしまうのか分からないが、似たような事業で出発するのかなってことを思う。

（事務局）

補足説明させていただく。今、担当の方から申し上げたが、もともと事業をスタートするに当たっては事業期間というもの設けてスタートしている。それが本事業ではＲ４年度、今年度末をもって一応終了ということで、一旦終了させて頂くが、今委員さんが仰ったとおり、若者が参加する機会は重要だと認識しているので、事業効果等を検証しながら考えたいと思う。

（委員）

先程、発言の中でもあった高校生議会が、先日、行われた。今の若い人が政治に興味を持たないのは、自分たちが言っても意味がない、変わらないのではないかと思っている子が多いのではと思っていた。しかし、先日行われた高校生議会に参加してくれた、主に高校生、生徒会の子達は一般の質問を沢山挙げてきてくれて、今すぐにでもこれはやるべきじゃないかってことが沢山あった。私はそれを教育厚生の委員長として講評もさせていただいたが、実はあの場で頂いた質問を私はすぐにでも改善していきたいと思っている。今度９月の議会でも質問で取り入れていきたいと思うが、やはり高校生達がああいう場で発言したことを実際に聞いてくれた議員や県の執行部がすぐに対応してくれたっていうことが、子供達、高校生が政治に参加する、そういうことを発言する意味があるのだって思える成功体験につながると思う。やはり議会としても行政としても、そういった部分は丁寧に拾い上げて、またそれを皆さんにも伝えていきながら共有していくってことが大事なんじゃないかなっ

ていうふうに思っているので、その点だけ先程ちょっと高校生議会というお話しがあったので、1点だけ私の気持ちをお伝えさせて頂いた。

（委員）

「すごろく」という番組を作っており、これはコロナと同じように2020年4月にスタートした番組である。その中で何かできるのか、ということをいつも模索しながらやっているのだけれども、最近では以前放送していた「がんばれ部活」という高校生の部活動を取り上げるコーナーを復活させ、月に一回程度だが、これまで駿台甲府の書道部や、北杜高校の馬術部もお世話になった。また、甲斐清和高校の情報処理の関係の子供達とか、あと青洲高校の応援団も、女性団長にフューチャーしたような特集も企画して放送してきた。制限がある中で子供達が精一杯頑張っているっていうことは、どの年代の方がご覧になっても勇気をももらえるし、お馴染みの子供達を見てもまた励ましになるかなぁというように思っている。あと先ほども話があったが、大人が諦めないっていうことが本当大事だなぁと思っている。やれることを私達も精一杯やる、という姿勢で、もちろん安全面も確認しながら、感染症対策もしながらだが、子供達がこれだけ輝いているということをテレビという場を通して少しでも届けられたらなと思っている。不思議なことに大人がはしゃいでいるとすぐにクレームの電話が来るのだが、子供達が頑張っている姿って、マスクしているとか、してないとか関係なくクレームは一切来ない。やっぱりどの年代の方が見ても気持ちのいいものなのかな。この時代だからこそ、何かこう輝きの瞬間を見るってことが大人にとっても大事な事かなと思っており、「がんばれ部活」も続けていきたいので、もしどこか素敵な高校の部活動があればご紹介いただきたい。

（委員）

私の場合は学校現場とかではなく、経済面からコロナ禍での課題について考えてみた。コロナ禍で経済もグローバル化しており、例えば半導体の部材が入ってこないとか、エネルギー損失の問題、それからコロナで飲食・観光関連が非常に厳しいこと。その中で子供たちを含めて、どういう変化が起きているのだろうって考えたときに、やっぱりお父さんお母さんの収入が減り、残業も減っているので残業手当が付かない。一つの家庭の中での収入は減っているが、子供たちにかかるものはかかる。

先程も発言があったように、学校でも外でも、子供たちが孤立化している場面があると思う。そこはどうすべきかというと、やはり家族で支え合うしかないのではないか。今こそ、家族内の絆とか家庭内教育とかが必要だし、もう一つはなかなか学校ではできないが、ボランティアという新たなコミュニティの中で、子供たちが活躍していけるようにすることが非常に大事だと思う。どうしても学校だと制約があって、なかなか自由にできないところが当然あると思う。しかし、ボランティアであれば自己責任で参加をするわけだから、新たなコミュニティとして子供さんたちが明るく輝ける場面があるかもしれない。

（議長）

他に意見はあるか。

（委員）
特になし。
（事務局）
いただいた御意見については、事務局で取りまとめ、青少年の育成・支援に取り組む庁内組織である「青少年総合対策本部」に報告し、子供・若者の支援施策につなげていくよう働きかけていく。

議事（４）その他

（議長）
議事（４）その他について事務局、委員から何かあるか。
（事務局・委員）
特になし。
（議長）
以上で議事を終了する。

(3) その他

「子ども・若者の意識と行動に関する調査」について
《説明》
「子ども・若者の意識と行動に関する調査」は、本県における子ども・若者の生活実態、価値観、満足度及び課題、社会に対する意見等を調査し、意識と行動の変化、現状と課題を把握するとともに、今後の子ども・若者に関する総合的な施策のあり方を検討し、令和６年度に策定を予定している「やまなし子ども・若者育成指針」の基礎資料としていく。委員の皆様には、本調査を実施することになりましたら、具体的なスケジュールや調査項目について検討していただくことになる。任期中、本調査の実施からまとめまでの間においてお力添えいただきたい。